

2019年 4月19日 金曜日
(平成31年)

©朝日学生新聞社
東京本社 〒104-8433 東京都中央区築地 5-3-2
大阪支社 〒530-0005 大阪市北区中之島 2-3-18
電話 03(3545)5223(広報) 06(6202)3893(大阪)
記事についてのお問い合わせは 03(3545)5222(編集)

動物たちの命、つなげたい

オウサマペンギンの人工授精に初成功

水族館「鴨川シーワールド」(千葉県鴨川市)で、世界で初めて人工授精で生まれ育ったオウサマペンギンのひなが元気に育っています。「命の誕生はなによりうれしい」と担当の飼育係は話します。飼育係は、動物を健康に育てるだけでなく、貴重な命をつないでいくことも大切な仕事です。きょう4月19日は「飼育の日」です。
(猪野元健)

他の鳥類も助けられるかも

「モフモフしてる」。4月19日、約30羽のうち1羽だけ茶色い毛におおわ



モフモフとした茶色い毛におおわれているのが人工授精で生まれたオウサマペンギンのひな—どれも10日、千葉県鴨川市の鴨川シーワールド

です。ひなはあたたかいふさふさの毛から、しばらくすると水をはじく大人と同じ羽へとかわっていきます。「夏ごろまでしかこの姿は見られませんが」と、飼育係の加納幸司さん(35歳)は笑顔で話します。

飼育係の仕事のひとつは動物たちの健康管理です。加納さんは毎日、ペンギンたちがふだんたちがう行動をしていないか、体に異変はないかと注意深く観察し、食べたえさの量を記録します。陸のそうじだけでなく、水中(水温12度)にもぐって展示施設を洗いま



ペンギンを見守る加納さん。小学生の時、家族と鴨川シーワールドを訪れて飼育係にあこがれました



水中のそうじもします

す。

ペンギンの健康に気を配る一方で、力を入れている繁殖がうまうまいかないう課題がありました。加納さんは10年ほど前にペンギンの飼育担当になったから、一度しか繁殖に成功していません。屋内で飼育しているため、照明をつける時間を外の日照時間に合わせるなど、

野生保護に飼育技術を生かす

絶滅のおそれのある野生動物の国際的な取引を規制するワシントン条約が1975年に発効し、野生動物の保護の考えは年々高まっています。動物園や水族館は、お客さんに動物を楽しんでもらうだけではなく、野生動物を守り、命を次の世代に伝える役割をになう施設へと姿を変えています。

鴨川シーワールドの館長、勝俣浩さんは「野生動物の保全に、飼育技術を生かす取り組みが考えられています。」「飼育の仕事をしたい子どもたちには、飼育以外のこともいろんな経験をしてほしいです。飼育員に本当になりたいと思ったとき、そうした経験がきつと役立ちます」と勝俣さんは話します。